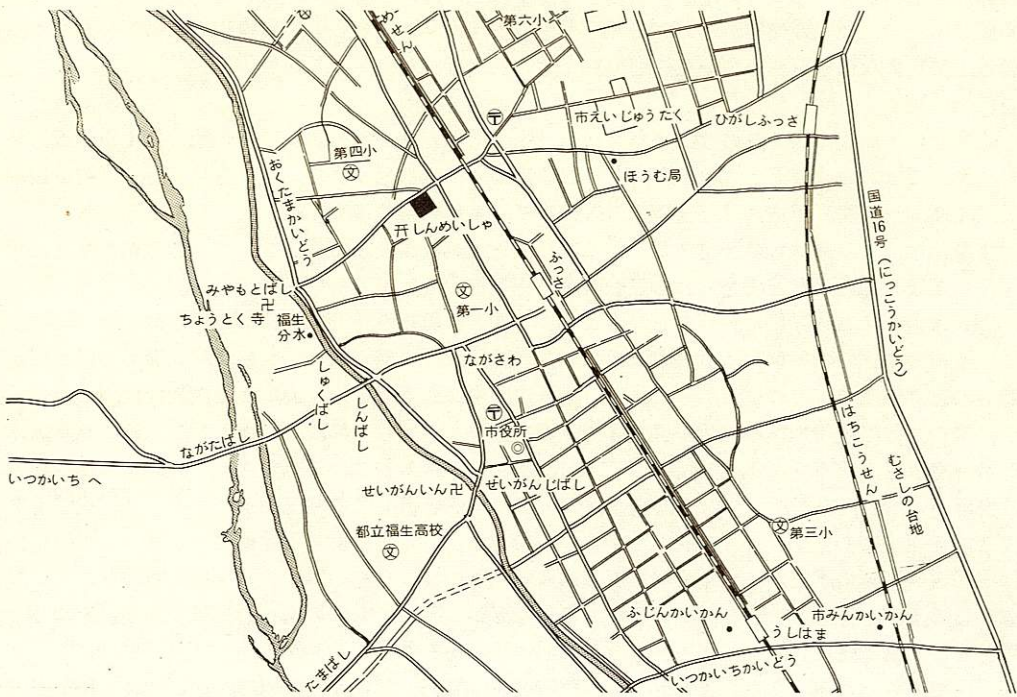


福生市概観



イ. 地理的位置

福生(フッサ)。むずかしい読み方の市である。アイヌ語説など、地名の起源について諸説を持つこの福生市は、“3万人市”のトップを切って、昭和45年7月に市制を施行した。

その位置をながめると、東京都心から西方に約32Km、西多摩郡内の最東端にあって、多摩川の東北端に南北に横たわる。その面積は10.38Km²で、西多摩郡内にある9市町村のうち第8位を占める小さな行政区域を有する市である。しかも市域の三分の一が、市の東方に位置する横田基地でしめられている。その周囲には、羽村町、瑞穂町、昭島市、武蔵村山市、立川市、八王子市、秋川市の7市町村が隣接している。

つぎに人口を考察すると、39,310人(昭和46年9月1日現在)であって、人口密度は3,774人、これは西多摩郡内ではトップを占める。集落景観も都市的様相を見せ、その位置といい、人口密度といい、西多摩郡の玄関といわれるゆえんである。ところで、福生市の発展を考える時つぎの二つの点が重要だと思われる。すなわち、その第一は、明治27年、一面が桑畑であったこの地域に青梅線が開通したことである。これにより福生のみならず、西多摩郡と立川が更に東京が直結されたのであるが、とりわけ福生市は、西多摩郡内の他地域より都心に近いという有利性が発揮されることになったのである。

その第二は、昭和14年、広大な武蔵野台地の一角が目をつけられ、陸軍航空整備学校が設けられたことである。それ以来福生市は基地の街として発展することになった。第二次大戦後、横田基地は米軍に接收され、このために福生市には、基地労務者、米軍人相手のサービス業が激増し、さらに米軍用ハウスが2,000戸も建てられ、商店街は急激に発展した。

最近の福生市は、どちらかという、基地の街というより東京の衛星都市的な性格を強くしている。都心から西方へ西方へと押し出している都市化のスプロールは、武蔵野台地が西北の奥多摩の山なみの麓近くで尽きようとしている所に立地するこの福生市に押し寄せてきているのである。そのために、集団住宅や個人住宅の建築が目ざましく、農地の転用はいちじるしい。多摩川沿いに見られた水田や台地上に広大な面積を占めていた畑地も日ごとに住宅地になっている。

ロ. 地 勢

春先の季節風の吹く日には、土ぼこりが、もうもうと舞いあがる武蔵野台地、福生市は五万分の一地形図ではこの武蔵野台地の一角、“青梅”の図に市域が含まれる。それを見ると、青梅を扇頂とし、北は加治丘陵、西方に草花丘陵があり、この間に地質時代多摩川が形成した扇状地がある。

多摩川は、この扇状地の西方すなわち草花丘陵近くに流路をとっているが、その流路を変えて行く過程で形成して行ったと考えられる三つの段丘上に市域は広がっているのである。

つきにもうすこし詳細に、地勢を見ることにしよう。第一段丘面は標高が海拔137mであって、ここには市域の三分の一を占める横田基地がある。地下水位の最も低いのもこの段丘面で、武蔵野台地特有の乏水地域である。したがって、その開発の歴史は一番新しく、近年まで広大な畑地が見られたが、最近では工場用地への転用が目立っている。比高差5m程度の段丘斜面（ここには、まだ雑木林が散見される）を下って130m余の第二段丘面にくると、ここは市街の中心が立地する面である。青梅線が通過し、市役所、小、中学校などの官公署、商店街もこの段丘面上にある。長沢遺跡もこの第二段丘面上にあって、つぎの斜面に漸移する地点である。第三段丘面は標高約100m、福生市内では一番古い開発の歴史を持つ地帯である。武蔵野独特のひいらぎの木の垣根を持つ草屋根の古い民家、堂々たる土蔵を持った大きなトタンぶきの農家などが残存しているのもこの一帯である。その理由を考えるに、第二段丘斜面下には現在も所々に湧水地があることでもわかる通り、集落立地には一番適した所であったからであると思われる。江戸時代のはじめ、承応元年（1652）に引水された玉川上水もこの面を流れている。

ところで、見晴しのよききく時、周囲が一望される高台に立つならば、西に丹沢山塊や富士の秀峰を、西北には御岳山や大岳山を手にとるように見ることができただろう。さらに気をつけて見るならば、里山の奥にちょっぴり顔をのぞかせている雲取山、北方にどっしりと腰を据えている秩父の武甲山など一大パノラマを楽しむことができるだろう。

横田基地からの爆音を除けば、これという天災があるわけではなく、台風一過、空気が澄みわたり鮮やかに映える山の緑といい、新雪に輝く2月の山の白といい、さらに山霧に煙る梅雨時の山の灰色といい、四季折々に変化する奥多摩連山の色と姿はまさに一幅の絵画である。福生市は縄文人ならずも、雄大な自然に驚喜できる恵まれた土地である。

長沢遺跡の位置と地質

福生駅前的大通りを商店街に沿って西方（多摩川の流れている方向）に行く。二番目の信号の地点を右折する。舗装された都道を、右手に福生第一小学校を見ながら行くと、福生地区消防署の建物がある。長沢遺跡はこの地点下である。

多摩川が形成した河岸段丘、その第二段丘面が尽きて、段丘斜面に移行する地点、標高は約130mである。現在でも、この斜面直下には湧水地点が所々に見られることからわかる通り、昔時の集落立地には好個の地点だったことはすぐわかる。

この地点の堆積の層序を見ると、黒褐色土層のつぎに砂礫層があって、武蔵野台地に一般的なローム層（それは黒褐色土層の下に堆積している）が欠如しているのが大きな特色である。